



JCRファーマ、ファットクライアントとMicrosoft 365のバックアップにDruvaを採用

1,000+

Druvaデータレジエンシークラウドで24時間365日保護されるエンドポイントの数

90%<

従来ソリューションより削減された導入/入替にかかる時間とITサポートチケットの数

JCRファーマについて

JCRファーマ株式会社は兵庫県芦屋市に本社を置く、東証プライム市場に上場する医薬品メーカーです。1975年の創業以来、希少疾患・難病領域をターゲットとし、バイオ医薬品や再生医療等製品の研究開発を行ってきました。

Druva導入以前の課題

同社の従業員はもともとデスクトップPCで業務を行っていましたが、リモートワークの実施を考慮してデータレスPCを導入しました。PCのローカルディスクにはデータを保存せず、ファイルサーバーとの間でネットワーク経由でファイル転送を行うソリューションにより、エンドポイントデータ保護対策を実現しました。しかし情報システム室の大川順也氏によると、「データレスPCでは作業効率が大きく低下してしまうという課題に直面しました。「PCでの作業にVPN接続が必須であり、ネットワークが不安定になると動作しなくなったり、Web会議が利用できなくなったりしました。」と大川氏は述べています。

ユーザーからファットクライアントのノートPCに替えてほしいという要望が強く、ローカルディスクにデータを保持してもデータ保護が実現できるソリューションの必要性が発生しました。

また、海外拠点を含めて新たにMicrosoft 365を導入することになり、そのデータ保護をどのように行うかという課題も浮上しました。

Druvaのソリューション

大川氏と情報システム室のメンバーは、クラウドネイティブ型バックアップシステムの調査を行いました。いくつかのソリューションを



Druva導入以前の課題

- データレスPCソリューションを使ってデータ保護を行っていたが、使い勝手が悪いためファットクライアント（ノートPC）への移行が必要だった。
- ファットクライアントへの移行に際して新しいデータ保護ソリューションを見つける必要があった。
- Microsoft 365がバックアップされておらず、不慮のデータ損失や削除、ランサムウェアの被害などから復旧できなくなる可能性があった。
- PCの更新や入れ替えは手作業で行われ、完了までに数日を要した。

Druvaのソリューション

- 1,000台を超えるPC上のエンドユーザーデータに対する、セキュアかつクラウドネイティブなエンドポイント向けバックアップ。
- デバイスの盗難紛失におけるリモートワイプとローカルワイプ、OneDriveやExchange Onlineデータを含むデータをユーザーがセルフサービスでリストア可能。
- 業務中断や従業員の生産性低下を伴わず、全PCデータにまたがる横断検索や訴訟ホールドを実施可能。
- SCIMによるAzure AD経由で新規ユーザーをDruvaデータレジエンシークラウドにインポート。

Druva導入後の成果

- Druvaデータレジエンシークラウドにより、1,000台以上のエンドポイントとMicrosoft 365データを保護。業界のデータ規制や共同責任モデルを遵守できるように。
- ユーザーPCへの導入時間がデータレスPCより90%以上短縮。通信やアクセス不良などに関わるサポートチケット数がゼロに。
- エンドポイントとMicrosoft 365全体でのデータ保全、複数のユーザーとデバイスにまたがるファイル検索によりインシデント発生時の切り分けが効率的に。

評価しましたが、DruvaデータレジリエンシークラウドはDruva SaaSの長所でもあるシンプルさ、拡張性、コスト削減の観点からその優位性は明らかでした。

「当社はDruvaデータレジリエンシークラウドを、1,000台以上のPCに対してバックアップとデータガバナンス、デバイスの移行やサイバーレジリエンスにも活用しています」と、大川氏は述べています。

Druvaにより、リモートワイプ、ローカルワイプ、紛失・盗難対策としてデバイス上のデータ暗号化、スナップショットによるデバイスの迅速な復旧が行えるようになりました。業務や従業員の生産性に影響を与えないエンドユーザーデータや設定の移行、エアギャップのある分離されたデータによるランサムウェアからの復旧を実現できるようになりました。

同社の情報システム室室長である土井康司氏は、同社がどのようにDruvaを導入したかを詳しく説明してくれました。「新規ユーザーは、Azure ADによってDruvaデータレジリエンシークラウドにインポートされます。新入社員のPCにはDruvaのクライアントソフトをキッティングして配布し、社員は自身のシングルサインオン認証情報を使ってアクティベーションするだけでDruvaを利用開始できます。」

「コロナ禍によって在宅勤務が想定よりも多くなりましたが、Druvaのデータ保護とともにSSE（セキュリティ サービス エッジ）ソリューションを採用したこと、リモートワークを安心して行えるようになりました」と土井氏は続けます。「リモートワークにファットクライアントを使えるようになったことで、データ保護に関するインフラ構成がシンプルになりました。ネットワークやアプリケーションの制限なく、バックグラウンドで動作するDruvaのクライアントソフトの存在を意識することなく、使い慣れたPCをいつも通り利用できるようになり、ユーザーからも好評を得ています」と述べています。

Druva導入後の成果

JCRファーマではファットクライアントだけでなく、Microsoft 365のデータ保護もDruvaで行っています。OneDrive、Exchange Online、SharePoint、Teams、Groupsのデータを網羅してバックアップを実施しています。OneDriveとExchange Onlineのデータについてはユーザーがセルフサービスでデータのダウンロードやリストアが行えるようになりました。

SharePointやTeamsに関しては、メンバーであるユーザーがサイト全体や一部のファイルを不要と思って削除してしまうことがあります。後日、別のメンバーからやはり必要であるため復旧してほしいという依頼が情報システム室に来た際、Druvaのバックアップデータを使って迅速かつ確実にリストアできるようになりました。「Microsoft 365にもごみ箱やバージョン履歴があり、ある程度のデータ復旧は可能です。しかし、これらの保持期間は比較的短く、長期に遡った復旧を行うにはDruvaのようなソリ

ューションが必要です。」と大川氏は述べています。

大川氏はデータ移行にDruvaを使用することの利点についても、その効果を実感しています。「従業員のPCが故障するなどして入れ替えを行う場合、従来手動で行っていた古いマシンから新しいマシンへのデータ移行を、Druvaによって自動的に行えるようになりました。これにより、情報システム室の作業負荷が激減し、誤ってデータを削除してしまうリスクも低減できました。」

PCデータだけでなく、Microsoft 365のデータ移行にも役立ちました。JCRファーマでは日本本社とブラジルの子会社で異なるMicrosoft 365テナントを運用し、どちらもDruvaのデータ保護対象としてバックアップを実施していました。しばらくしてこの2つのテナントを統合し、ブラジルのテナントを解約することになりました。このときもDruvaデータレジリエンシークラウドからブラジルのテナントに置かれたデータのコピーをファイルとして一括ダウンロードし、日本のテナントに簡単にデータ移行することができました。

大川氏と情報システム室のメンバーは将来的なDruvaの活用方法について次のように述べています。「組織の今後のグローバル展開により、訴訟ホールドの実施が必要になってくると思われますが、Druvaによってその準備も万全です。また現在オンプレミスで運用しているファイルサーバーの機能をSharePointに移行することも考えています。SharePointを含めたMicrosoft 365のバックアップはDruvaで導入済みであるため、データ保護の範囲をさらに広げることができると期待しています。」



お問い合わせ: japan-sales@druva.com

Druvaは業界初で唯一の大規模SaaSソリューションであるデータレジリエンシークラウドにより、あらゆる組織のサイバーレジリエンス、データレジリエンス、運用レジリエンスを実現します。お客様はクラウドの採用を加速しながら、データ保護の劇的な簡素化、データガバナンスの合理化、データの可視性と洞察を得ることができます。Druvaは複雑なインフラと関連する管理コストを排除し、複数の地域とクラウドにまたがる単一プラットフォームによってデータの回復力を提供するSaaSベースの手法を開拓しました。Druvaはフォーチュン500のうち60社を含む何千もの企業に採用されており、データレジリエンシー向上とクラウドへの移行加速化に役立っています。www.druva.com/ja をぜひご覧ください。[LinkedIn](#), [Twitter](#), [Facebook](#)もぜひフォローしてください。